

平成 29 年度事業計画

現下のエネルギー情勢は、国内では、一部の原子力が再稼働したものの、今後のエネルギーミックスの行方は依然として不透明である一方、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーが急速に普及し、電力小売市場も全面自由化された。また、世界では、景気減速と北米のシェールオイル・ガス生産等による石油の供給過剰に起因する原油価格の下落、COP21 を踏まえたパリ協定の発効、あるいはデジタル技術を応用したデマンドコントロールへの期待など、世界のエネルギー動静は、ますますダイナミックな動きを見せている。

以上の認識の下、引き続き関連する情報の収集と提供に努めるとともに、以下の事業を展開していく。

- 重点事業 : 「エネルギートップ講演会」を開催する。
- WEC 事業 : イスタンブール執行理事会で提案・承認された、アジア地域における「温室効果ガス排出量低減のための好事例調査」タスクチームを提案国としてリードしていく。
- 国内事業 : 時宜を得たテーマによる「パワートーク」を引き続き開催する。
- 事業運営 : 引き続き経費節減に努めながら会員サービス維持を図るとともに、移行法人としての円滑・適法な運営につとめる。

1. 普及啓発事業

(1) 機関誌発行事業

- ・機関誌「エネルギーと動力」(年 2 回) を発刊・配布する。
- ・企画審議するための編集委員会 (年 2 回) を開催する。

(2) シンポジウム事業

- ・エネルギートップ講演会
3 年に一度開催してきている、エネルギー関係 5 業界 (電力、ガス、石油、石炭、電機) トップによる講演会を以下のとおり実施する。

日時 : 平成 29 年 12 月 1 日 (金) 13 時 20 分~17 時 20 分

場所 : 日本工業倶楽部 大会堂

登壇者 : 電気事業連合会、日本ガス協会、石油連盟、石炭エネルギーセンター、日本電機工業会の会長

2. WEC 事業

(1) WEC 年間事業活動への参画

① 執行理事会(Executive Assembly)への参加

今年度は 10 月に、ポルトガルのリスボンにおいて、執行理事会やスタディ委員会などの常設委員会および関連会議も開催されることから、日本国内委員会議長をはじめ委員会委員および事務局が参加する。

時期 : 2017 年 10 月 16 日 (月) ~19 日 (木)

場所 : ポルトガル、リスボン

② WEC アジア地域会議

日本国内委員会の提案により、新たな活動として「温室効果ガス排出量低減のための好事例調査」をリードしていくこととなった。会議は、10月のリスボン執行理事会に合わせて開催されるほか、6月に、韓国のソウルでも開催される予定。

③ アジア地域における WEC 関連活動への参加

イスタンブール大会の後、韓国のヤンフーン・デービッド・キム氏が WEC 会長に就任したことを踏まえ、アジア地域の活動活性化を目的とする日・中・韓 3 か国の実務者会議等に随時参加する。

(2) WEC 委員会への参加

WEC は、現在、6つのスタディ・グループを設置して、調査・研究を行っている。

<スタディ委員会の傘下>

① 世界のエネルギートリレンマ(World Energy Trilemma)

2008年、トリレンマ達成に向けた提言を行うとともに、エネルギーと気候変動政策に関する国別ランク付けを行うことを目的に開始された。これまでは、産業界のトップに対して政策立案者に求めることは何か、政策立案者に対し、産業界に求めることは何かなどをインタビューして、これらを取りまとめた提言を行ってきたが、2017年は、分散型電源に焦点を当てたインタビューを実施する。また、国別ランク付けについては、昨年、改善した新手法に基づく更新を行う。

② 世界のエネルギーシナリオ(World Energy Scenarios)

イスタンブール大会には、3つのシナリオ 2060、すなわち「モダンジャズ・シナリオ（市場が主導）」、「未完成シンフォニー・シナリオ（規制と国際協力が主導）」、ならびに「ハードロック・シナリオ（各国がバラバラに行動：今回新たに追加）」が報告された。今後は、地域ごとにワークショップや専門家会議を開催し、各地域固有の課題について議論を深め、2019年アブダビ大会にグローバルシナリオ 2060 を報告する。

③ 世界のエネルギー資源(World Energy Resources)

WEC は 3年に1回、全世界のエネルギー資源量を調査しており、今年のイスタンブール大会には、非在来型化石燃料掘削技術など、革新的な技術の動向調査を含めた報告をした。今後は、3年毎に全資源を対象とした一括報告をする方式から、1年毎に複数の個別資源を対象にした報告を繰り返すことで、3年間で全資源をカバーする方式に変更する。

④ エネルギーインフラの強靱化に向けた投資

(Financing Resilient Energy Infrastructure)

イスタンブール大会には、1)エネルギー／水／食糧、2)異常気象、3)サイバーアタック、の3つのリスクについて、その頻度や厳しさを推定するとともに、これらへの対応方策および投資促進策について取りまとめ、報告した。

今後は、地域や国レベルのリスクに焦点を当てた調査・検討を行っていく。

<プログラム委員会の傘下>

⑤ 世界の電力会社の活動状況 (Global Electricity Initiative)

2030年までに全人類が電力エネルギーを廉価、安定的かつ環境に配慮した形で利用できるようになることを目指し、2012年に発足した。その目的達成に向け、世界中の参加電力会社が互いに好事例を共有できるように、定期的なアンケート調査を実施し、レポートとして公表している。

⑥ エネルギーに関する国際的な枠組み (Global Energy Frameworks)

世界のエネルギーに関するさまざまな動きが相互に及ぼし合う影響について評価分析することを目的として、2014年に発足した。その目的達成に向け、月刊の **World Energy Focus** 誌を創刊し、評価分析結果を広く周知するとともに WEC の存在意義を高めることに努めている。

これらのスタディ・グループを補完する下記ナレッジ・ネットワークがある

<ナレッジ・ネットワーク>

- 自動車の電動化 (E-Mobility)
- エネルギー効率向上政策/技術 (Energy Efficiency Policies/Technologies)

以上を踏まえ、スタディ・グループ、ナレッジ・ネットワークの双方に、日本からも多くの委員が引き続き参加し、これらの調査研究に協力していくこととする。

<日本から参加する WEC 委員会委員> (敬称略)

- 理事・副会長 (アジア太平洋・南アジア地区担当)

東京ガス 常勤顧問	村木 茂
-----------	------
- 財務委員会

東京ガス 常勤顧問	村木 茂
-----------	------
- スタディ委員会

日本動力協会 事務局長	野田 篤志
-------------	-------
- プログラム委員会

関西電力 国際事業本部 国際部長	武智 芳博
------------------	-------
- スタディ・グループ
 - ・世界のエネルギートリレンマ

日本動力協会 参与	村田 肇
-----------	------
 - ・世界のエネルギーシナリオ

ガスター 品質保証本部長	田中 崇
エネエネション・エネルギー高度利用センター 普及促進部長	福島 亮
 - ・世界のエネルギー資源

日本動力協会 事務局長	野田 篤志
-------------	-------
 - ・エネルギーインフラの強靱化に向けた投資

日本政策投資銀行 Europe Ltd. (ロンドン)	加藤 隆宏
-----------------------------	-------
- ナレッジ・ネットワーク
 - ・自動車の電動化

本田技術研究所 企画室 HEET 主任研究員	酒井 伊知郎
------------------------	--------

- ・エネルギー効率向上政策
アジア太平洋エネルギー研究センター 研究部長 入江 一友
- FELP (Future Energy Leaders Programme)
*3名の候補者を推薦し、選考結果待ち。

(3) 会議の開催

- ・WEC 国内委員会の開催（日本動力協会定時総会と同時開催）

(4) 海外への情報発信

- ・WEC の World Energy Focus 等へ、日本のエネルギー事情を随時発信

3. 会員サービス事業

(1) 会員講演会およびパワートークの開催

著名人による時宜を得た講演会を4回開催する。

3回は、「パワートーク（講演後、当協会会長との対談あり）」とする。

会員講演会は、以下のとおり。

演 題 : 「安倍政権の今後の行方」（仮題）

講 師 : 東京大学名誉教授 佐々木 毅氏

日 時 : 平成 29 年 6 月 19 日（月）16 時～17 時（総会終了後）

場 所 : 経団連会館

(2) ニュースレターの発行

- ・会報「ニュースレター」（隔月、6編）

4. 会議他

(1) 会議の開催

- ・定時総会（平成 29 年 6 月 19 日）
- ・臨時総会（役員に異動があった場合）
- ・理事会（年 3 回：5 月、6 月、3 月）
- ・運営評議員会（年 1 回：3 月）

(2) 委員会の開催

- ・技術委員会（年 3 回：7 月、12 月、3 月）

以上